

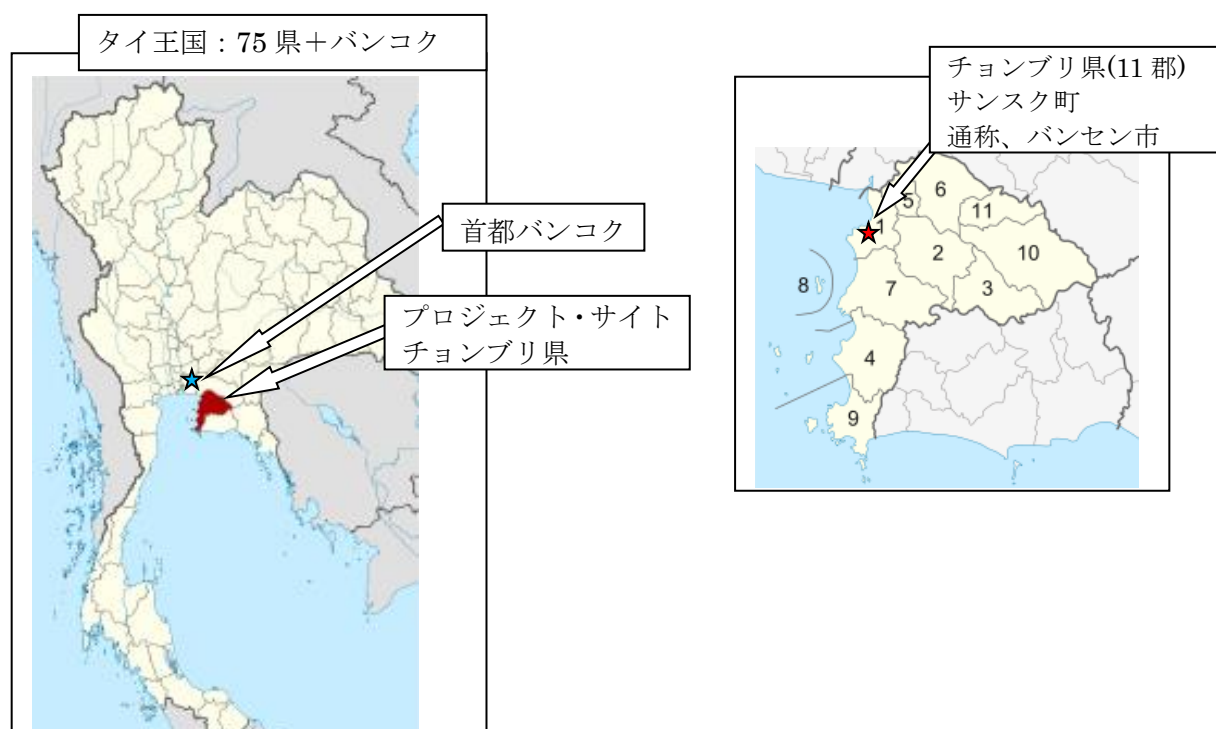
佐久大学は、佐久市との地域包括連携協定の中で3年間のJICA 草の根技術協力（地域活性化特別枠）を実施中です。

全体の期間：平成28年（2016年）1月～平成30年（2018年）12月

プロジェクト名：タイ、チョンブリ県における町ぐるみ高齢者ケア・包括プロジェクト
—サンスク町をパイロット地域として—

プロジェクトの目標：タイ、チョンブリ県、サンスク町における高齢者を対象とする地域包括ケアネットワークが構築され、介護、看護の人材が育成される。

プロジェクトの地理的な位置：



2014年度、タイ保健省の最新の発表(http://web.nso.go.th/en/survey/age/tables_older_50.pdf)によるとタイはすでに高齢社会へ突入し、高齢化率は14.9% (60歳以上、10,014,705人)です。本プロジェクトを開始したサンスク町 (住民登録者約5万人)の高齢化率は約10%です。地域における公的な高齢者ケアサービスの改善を目指しています。佐久市のこれまでの地域高齢者対策「地域包括ケア—世界最高健康都市構想」を参考にしつつ、タイ、サンスク町の既存のお寺を中心とする伝統的な集会、家族による高齢者ケアを尊重し、地域で高齢者を守るシステムづくり、在宅看護、ヘルスボランティアによる在宅ケアを促進する活動を実施します。

プロジェクトの活動により期待される5つのアウトプット

1. サンスク町高齢者ケア強化方針の下、「高齢者保健医療・介護推進委員会」が設置される。
2. 既存の「地域保健委員会」が体系的に活動できるように再構築される。
3. 在宅ケアを推進するためのシステムづくり、及び活動を実施する。
4. 既存のお寺単位の介護予防活動が人々の健康状態にあったプログラムに改編され高齢者が支え、支え合う活動を基本にきめ細かなプログラムが実施される。
5. 佐久市で研修を受け、帰国した人たちが地域のキーパーソンとなり、活動の継続と発展に寄与する。

本プロジェクトでは、3年間に渡り毎年、看護グループ、介護グループの研修が実施されます

終了：介護研修：平成 28 年（2016 年）9 月 29 日～10 月 8 日（10 日間） 研修員 6 人

今回：介護研修：平成 29 年（2017 年）9 月 27 日～10 月 7 日（11 日間） 研修員 13 人

研修施設：佐久大学、佐久市関連施設、東京研修（2 日間）

研修内容：講義、討議、演習、訪問への同行（シャドウラーニング）、施設見学

科目：日本の保健医療システム、高齢者の理解につて、生活習慣病を防ぐ栄養指導、笑いが健康に与える効果、ペープサードによる認知症理解の進め方、民生児童委員さんとの情報交換会

演習：認知症予防音楽療法、介護技術の基本演習、認知症患者への接し方演習、訪問リハビリテーション、訪問介護への同行、および各種施設ケア研修等



タイを出発の日、町長（中心）による壮行会



第 44 回国際福祉機器展を見学しました。



佐久大学での研修初日、意欲満々です。



「ぞっこんさく市」を見学しました。



集団で行うリハビリテーションの方法を演習中。



個別の介護技術の演習にも励みました。



“認知症予防・音楽療法”に参加。すぐに
応用できると、好評でした。



民生児童委員のみなさんと「高齢者住宅マップ
等の情報交換」をしました。



「笑いが健康に与える効果」の講義、1日1回
は笑いましょう！



研修参加証書授与式・歓送会、関係者一同
が参加し、和やかに行われました。

研修のまとめの会（10/6）

佐久市での学びをタイで応用できることが以下の通り述べられました。：カッコ内は、人数。

1. 手測り栄養（生活習慣病を防ぐ栄養指導の中で）（2）
2. 認知症を防ぐ音楽療法（3）
3. 新しいリハビリテーションの方法（2）
4. 子どもと高齢者のコラボを考えたい（2）
（子どももゴム体操に招き、高齢者と一緒に体操する。タイでも隣の保育園に声をかける。）
5. 高齢者に「ぬりえ」を使い、脳トレーニングを行う（2）
6. 地域ですで行っている「ゴム体操」に日本の脳トレーニングの方法をプラスする。
7. 脳トレーニングの回想療法
8. 認知症の人に接する方法
9. 笑いが健康に与える影響
10. 「栄養かるた」を作る
11. 日本の民生児童委員さんは、担当領域のマップだけでなく、ファイルを作成していた。
自分たちは、10家を担当しており多くはない。ファイルを作って、対応していきたい。
12. 口腔ケア
13. 施設ケアをやっている、Bang Bang Lamuang 高齢者社会開発センターでは、

デイケアプログラムは、実習にやってきた学生たちがやっており、職員はやっていない。職員も企画し、実施できるようにしたい。(今回の研修員は、C病棟(寝たきりと認知症患者の病棟)に勤務している。)

今回、日本で学び、これまでタイでよいと思っていたことがそうではない、ということがわかった。

例：1. 高齢者の親に全てを介助してあげることが、最高の親孝行だと思っていたが、自助努力をさせていないので、より機能が早く衰えることがわかった。

2. ぬりえは、小さい子どもが使うものと思い込んでいたが、高齢者の脳トレーニングに良い、ということを理解できた。

報告者：プロジェクト・マネージャー 東田